

## 第2部 -- 情報発信 -- 図書館の出版事業50年を振り返る (特集 アジ研図書館五十年の足跡と未来 -- 蔵書構築・情報発信の課題)

著者	佐々木 茂子, 高橋 宗生
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	174
ページ	36-37
発行年	2010-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004563">http://hdl.handle.net/2344/00004563</a>

# 図書館の出版事業五〇年を振り返る

佐々木茂子・高橋宗生

本稿では、アジア経済研究所図書館の出版事業に焦点をあて、資料の所在状況をどのように文献目録・解題などで外部に発信してきたかを概略的に振り返ることにする。

## ● 総合目録

国内外の図書館の所蔵状況を明らかにした総合目録は、途上国研究にとって基礎的参考資料であるが、アジ研設立当時、関連諸機関に分散所蔵された調査研究資料の実態は十分に把握されていなかった。そのなかで、『東南アジア統計資料目録（一九六〇年）』と『イスラーム関係資料総合目録』（一九六一年）は、日本におけるアジア諸国の調査研究資料の所蔵状況を把握する最初の試みであった。当時、総合目録の編纂は予備調査に始まり、所蔵機関から目録カードを収集するという非常に時間と労力を要する作業であった。『東南アジア関係資料総合目録』（一九六四年）全五巻は刊行に五年を要し、『現代中国関係中国語文献総合目録』（一九六七年）の場合は加えて、国交正常化前であることや漢字の簡略化が進むなど、当時の中国ならではの困難さも

伴った。

企画から完成に至るまでに二〇年近い歳月を要したのは、『旧植民地関係機関刊行物総合目録』全五巻である。国内外の約五〇機関の所蔵状況を調査した、当時としては画期的な目録であった。このほか『中国文雑誌・新聞総合目録』（一九八六年）など、多数の総合目録をめくると、いずれも草創期からの熱意が伝わってくる。これらの編纂作業で築かれた関係諸機関とのネットワークは、資料の相互利用を促進するうえでも大きな意義があった。さらに、『旧植民地関係機関刊行物総合目録』から、『デジタルアーカイブス』『近現代アジアのなかの日本』が生まれたように、総合目録を母胎として新たな情報資源が生まれたことは特筆に値する。

## ● 所蔵目録

アジ研図書館の所蔵資料を編纂した目録としては、つぎの三つの目録が重要である。まず、アジ研図書館が一九五九〜六八年までに収集整理した資料が、『アジア経済研究所蔵書目録 1959〜1968』

（一九六九〜七二年）全四巻に収められた。

このほかにも特定地域・テーマに関する所蔵目録が多数編纂されたが、なかでも『朝鮮語資料所蔵目録 一九五九〜一九七七』（一九七八年）は、朝鮮語固有の文字順に編集した、我が国最初の本格的な所蔵目録であった。最後に紹介するのは、統計資料の検索に資するために編纂された『発展途上国の統計資料目録』である。これは約二年ごとに更新される、アジ研が所蔵する統計資料の目録であった。昭和四二年度版から平成七年度版までは冊子体で、平成一〇年度版はCD-ROM版で発行された。同目録は、インターネットが普及する前に出版された統計資料への橋渡し役を務めていたが、現在ではほとんどの統計資料がOPAC上で検索可能となっている。

## ● 文献解題

所内外の専門家の協力を得て始まり、図書館職員自身も編纂に関わった「文献解題」は、二〇〇九年末現在、計四一点が出版されている。研究会やプロジェクトあるいは、図書館職員の海外における資料調査の成果

として編纂されている。各文献解題については「アジ研ワールドトレンド」二〇〇八年三月号で地域別にリスト化しているのをご参照いただきたい。

### ●定期刊行物

つぎに図書館職員が関わった定期刊行物に目を移すことにする。

アジ研の草創期、図書資料部と呼ばれていたアジ研図書館は、三種類の月刊誌を発行していた。ひとつは一九五九年に創刊した『資料月報』で、主に受人図書の目録を掲載した。また、数は少ないが、雑誌・新聞目録と地図目録を扱う号もあった。二つ目は、その翌年創刊の『外国雑誌記事索引』で、「欧文雑誌記事索引」を主体に、日本語文献、中国語・朝鮮語文献の雑誌記事を掲載した。最後は一九六四年創刊の『海外経済資料』で、各国政府機関、国際機関などが発行する経済白書、経済概観、中央銀行年次報告書、開発計画などを要約・紹介していた。この三誌はその後統合し、『アジア経済資料月報』（以下、『月報』と略）と改名した。『月報』には当時『アジア経済』に掲載されていた「近着文献紹介」も吸収することになった。

『月報』はしばしば特集を組む号があり、あしかけ四〇年の間には「文献目録・解題・展望」、「中国関係雑誌解題」、「海外資料要約」、「研究機関資料紹介」、「新収雑誌紹介」、「資料事情報告」、「随想」などの分野にお

いて、総数三〇〇点近い記事が掲載されてきた。

なかでも、「文献目録・解題・展望」に含まれる特集記事はその約半分を占め、最も多い分野であった。一例をあげると、一九八二年、日本の歴史教科書がアジア諸国で大きな反響を呼んだことに応えて、その年の一・二月号には「アジア諸国の主要新聞に現われた『教科書問題』」記事索引 一九八二年七月九月」が掲載され、同時に単行書としても出版された。

『月報』は一九九八年四月以降、印刷物ではなく図書館OPACに収録されることになった。一カ月ごとに更新される「新着図書」、「新規雑誌記事索引」、「継続雑誌」、「継続統計資料」がそれである。また、ZANCIS-CATの多言語対応が可能になるまでの過渡的措置として、非ローマ字言語の図書は『アジア・中東諸語図書目録』として一九九八年版から二〇〇二年版まで冊子体で出版された。

蔵書や新聞・雑誌の紹介は『アジ研ニュース』、『アジ研ワールドトレンド』などの定期刊行物や図書館関係雑誌においても実施されてきた。一九八二年九月号の『アジ研ニュース』から開始され、現在も継続中の「レファレンスコーナー」は、特定国・地域や特定主題に関する蔵書の紹介が行われている。同じ号からは「アジア・アフリカの新聞」が一九八四年六月号まで掲載された。続いて同年七月号からは「発展途上国の経済情

報誌」が一九九一年七月号まで五六回の長きにわたって連載された。その翌月号からは「発展途上国の統計資料」が一九九五年三月号まで三四回連載されている。

『発展途上地域日本語文献目録』一九八〇～一九九三年版、二〇〇〇～二〇〇四年版は、途上国に関する論文・記事情報を提供する書誌として活用された。一九八〇年以降、年々増えていく途上国関連の研究成果や情報を網羅するとともに、八三年版以降は著者名索引を掲載し、検索の便を図っている。採録件数は一九八〇年代に急速な伸びを見せ、八一年に四一五一点だったのが、八九年には七三七九点へと急増した。二〇〇〇年版以降は、単行書とその掲載論文、ならびに雑誌論文・記事を合わせて一万点から一万三〇〇〇点台で推移した。途中、中断した時期が六年間あったのは残念であるが、社会科学分野を網羅し、地域・主題別に分類された一覧性の高い目録なので、現在でも利用価値があると考えられる。

アジ研図書館では、研究動向に常に留意し、今後も特定地域や主題を対象にした文献目録・解題、資料紹介などを作成・出版するとともに、図書館ホームページ上にも資料情報を掲載していく予定である。

○shibasaki shigeo takahashi muneko  
／アジ研経済研究所図書館